

さくら坂

医療法人厚仁会 秦野厚生病院 広報紙

就任のご挨拶

「身近で、頼れる病院」をめざして

病院長 坂井 喜郎



秦野厚生病院は、地域の方々が安心して相談できる病院として精神科医療に取り組んで参りました。

今年からは、皆様が気軽に相談できる場として、外来に「地域生活支援部」を新設いたしました。これは、地域で安心して暮らせるように訪問看護、デイケア、作業療法を利用したサポート体制の充実を目的としています。これにより、不調な時の早期介入が可能になると考えております。

入院治療においても、利用者である患者様を中心に多職種が支えあうチーム

医療に力を入れてまいります。退院後も途絶えることのない医療サービスを提供していけると考えております。

認知症でお困りのご家族の方にも「物忘れ外来」を通じて、この病気の理解をしていただき、接し方をアドバイスさせていただきます。介護者のメンタルヘルスケアも私どもの役割と考えております。

「心の問題」は誰もが抱える問題です。精神科は人間にとって一番身近な病院でなければいけないと考えています。今後も誰もが頼れる場を提供していければと思います。

.....

ハイライト:

- 春。病院前の「さくら坂」に今年もたくさんの桜が咲きました。
- その4月、坂井病院長が就任、新入職員7名も迎えて新体制がスタートしました。(1~2面)
- 岩井前院長の4年間、「医療の質向上」への挑戦は確実に前進してきました。(3面)
- 医療をめぐる環境が一層厳しさを増していく中、「身近で、頼れる病院」を目指す私たちの取り組みは、これからが正念場です。

7名迎え、新入職員歓迎会

—新院長先頭に“フレッシュ・スタート”—

.....

目次:

新入職員、決意と抱負	2
春爛漫・アラカルト	2
外来改善進む	3
「質の向上」挑戦4年間	3
パニック障害	4

平成19年度の新入職員歓迎会が開かれました。今年の新入職員は7名と少なめでしたが、坂井新院長を筆頭に元気の良いフレッシュな職員を迎えることができ、満開の桜とともに清々しいスタートを切ることが出来ました。

また恒例の表彰では、各部署長から推薦された個人・団体の中から、優秀職員表彰として、管理課夜間当直員の飛垣さん、グループ表彰では、併設の「グループホームおおね」が選ばれ表彰状と副賞が贈られました。



昨年度から加わった永年勤続表彰では、丸10年を迎えた5名の

方が表彰されました。

(新入職員の決意と抱負=2面)

新入職員 決意と抱負



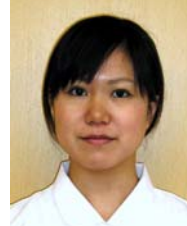
石黒 陽子(病院・准看護師)

私がこの道に進もうと思ったのは、高齢者の方々とコミュニケーションをとりたいから、心地良い入院生活を送って頂くため。学んできたことを活かして、自分らしい看護を行っていききたいと思っています。



渡邊 優(病院・看護師)

今まであまり関わったことのない精神科の患者様が対象ということで、不安もあります。が、先輩方や患者様から多くのことを学び、ひとつずつ成長していききたいと思っています。



長友 菜摘(病院・看護師)

初めて病院で働くので、分からないことはありますが、いつでも笑顔の絶えない、明るく患者様から信頼されるような看護師になりたいと思います。



北村 邦洋(老健・理学療法士)

朝の6時半から老健入所の介護職として、午後は学校という生活をしてきました。そして今年、念願の理学療法士として入職することが出来ました。一所懸命頑張っていきたいと思っています。

さあ、頑張っていこう!

—いつも患者様の笑顔のために—



市川 千愛(病院・作業療法士)

私は学生の時に2ヶ月間秦野厚生病院で実習をさせて頂きました。その際に感じた病院の雰囲気や職員の方々の暖かい医療を肌で感じ、私もこの病院で働いてみたいと思います。様々な事を教えて頂きながら成長していけたらと思っています。



古座野 かおり(病院・栄養士)

食事は患者様にとって大きな楽しみ、元気の源でもあります。そして治療の助けにもなります。皆様においしくて栄養バランスの取れた食事を提供していきたいと思っています。



大内 謙吾(老健・理学療法士)

入所者の皆様や家族の方々に顔を覚えて頂き、気軽に声をかけて頂けるように、笑顔でモットーに頑張っていきたいと思っています。

巣作り、雛祭り、花見 =春爛漫・トピックス=

- 春。病院敷地内の樹の陰に、野鳥が巣を作りました。見えますか?(写真1)
- 3月、雛祭りの日に病棟ではお茶会が開かれ、患者様もスタッフもおいしいお茶と和菓子を楽しみました。(写真2)
- 春といえば桜。今年のデイケアの花見は小田原城址公園でした。(写真3)



(写真1)



(写真2)



(写真3)

外来診察など改善策実施します。

－4月から。相談員も外来窓口常駐－

(1) 診察順番

当院の外来では、これまで患者様の診察順番をお知らせすることが出来ず、「ちょっと出かけたんだけど、大丈夫でしょうか」と窓口にお問い合わせ頂くことがあり、大変ご不便をおかけしておりました。

パソコンの導入により、4月からは各診察室ごとの呼び出し番号（およそ5名分）を表示することで、おおまかにご自分の順番が分かるようになります。現在調整中ですが4月中に稼働する予定です。

ただレクイックサービス（簡単な問診だけで前回と同じ処方をする）が不定期に入るために多少順番が前後することがありますのでご承知おき下さい。

(2) 相談員が外来窓口常駐

外来待合室にあるカウンターには看護師がおり、外来患者様へのお声かけや援助などを行っておりますが、4月からは医療相談室の精神保健福祉士が第3窓口に常駐し、皆様からのご相談にお答えいたします。



相談員も外来窓口常駐

(3) 外来担当医一覧

	月	火	水	木	金	土
午前	小泉 高橋	坂井 山本	清水 森脇 奥村	長谷川 鈴木(予約制)	内出 佐々木 鈴木(予約制)	坂井 田村(第1・3・5) 物忘れ外来
午後 (専門外来)			パニック障害		ストレス不眠 女性専門	

※鈴木先生は全て予約制です

「質の向上」追求の4年間で総括

－地域精神医療講座で岩井前院長が講演－

昨年度初めての試みとして開催されました「病院職員のための精神医療講座」の3回目が2月22日に行われ、地域の病院等からの参加を含めて100名程がお集まり頂きました。前回、前々回は外部の講師をお招きしましたが、今回は秦野厚生病院の岩井院長が、3月末で退職することもあり、「精神科医療の質の向上を求めて～四年間を振り返る～」というテーマで講演を致しました。

講演の中で、岩井院長は成果とともに限界や副作用も示しながら、最終的にはサンテグジュペリの「星の王子様」の一文を引用し、それを基にしたお話で講演を締めくくりました。



「精神科医療で本当に大切なものは心である。心こそは目に見えにくく、まさに心で見えない。その精神科医療で心がないがしろにされるきらいがある。だからこそ、心の回復を導く手段を、できるだけ形として見えるようにして、誰もが心をもっと大切にできるようにしたい。私たちは、質の向上運動にそのような方向性を見ている。」



示刪割攸器孺・・

